

報恩寺だより

平成16年4月17日
綾瀬市寺尾南 2-10-1
おたすけ観音 報恩寺
電話 0467-78-7160
FAX0467-79-1567

大般若祈祷会勤修について

5月17日は、おたすけ観音の縁日です。皆様の家内安全、身体健全、諸災消除、諸縁吉祥を祈り、大般若祈祷会を次により行いますので、お誘い合わせのうえ御参詣くださるよう、ご案内申し上げます。

記

期日 5月17日(月)
日程 午後1時 御詠歌
午後2時 大般若祈祷会
午後3時 小斎

祈祷料(2000円)は当日御志納お願い致します。

特別御寄進

次の方々から特別御寄進を頂きました。各位の御芳志に感謝すると共に供養菩提のご冥福をお祈りいたします。

重森重男 様	飯室博海 様	橘川文夫 様	蛭子幸三郎 様
近藤嘉久 様	早川雪男 様	荒川陽子 様	重森信一郎 様
森山 茂 様	橘川郁夫 様	奥津政司 様	石川 晃 様
山口裕久 様	小山田兵衛 様	近藤信吾 様	笠間孝夫 様
小山 昇 様	笠間 功 様		

報恩寺梅花講のあゆみ

曹洞宗の御詠歌・梅花流は、1952（昭和27）年の道元禅師七百回大遠忌の際に、宗門の教えと両祖さまのご生涯をわかり易く世の中に広めることを目的として創立されました。そして、多くの人々のご尽力により歌詞が作られ、曲がつけられ、所作がつけられ現在の形になりました。難しいお経の内容を、わかりやすくしかも短く表現するために大変な努力と日数を要したようです。現在でも新曲が発表され、詞の内容を改訂しその表現方法を変えるなどして、時代の変化に合わせ宗門をより分かりやすく親しんでいただくための努力が続いております。

報恩寺に初めて梅花講が出来たのはおよそ昭和29年頃だったようです。今はもう設立当時の講員さんから直接お話を聞くことは出来ませんが、その講員さんを知る方からお話を伺いました。

いつも大般若の時に「おたすけ饅頭」を作ってくださいる橘川さんのお話では、「おばあさんは御詠歌があると言うと、前の日から荷物の支度をしてカバンを背負ってお寺に行くのが「たのしみで、たのしみで」といって出かけて往かれました、今でもその姿が目には浮かびます。」

写真右の小山イセさんの娘さんの早川さんのお話。「当時の農家は大変忙しく、農作業の合間を見てお寺に出かけるのは大変だったようで、家族の顔を見ながら出かけていました。なかなか出かける旨を伝えることが出来ず、家の前で仲間に声をかけてもらっていました。」

また、帰り道でも「どんこうでいくからよ」と言いながらみんなで集まり、道々、休み休み楽しみながら行かれていました。

そのお唱えは、まだ幼かった私の記憶では昭和40年頃、本堂の南側の日当たりのよい所で、おばあちゃん達が4・5人あつまり、とても心地よい鈴の音を響かせ、少し音の外れたようでありながらも、ありがたいお唱え、そしてその様子を眺めながら遊んでいる幼児（私）がいる。そんな気持が癒されるような思い出があります。